

あざみ沢通信

第33号

H29年度第2号
長野県野沢北
高等学校
PTA広報委員会

伝える力

PTA会長
横山俊介



PTA会長に任命されて、早8ヶ月になりました。今年度の高P連北信越大会は富山県で開催し、全国大会は静岡県にて行われました。北信越大会では、隣接する県のPTA役員が一つの会場に集まるものですから、各県の県民性が話題になり、お国自慢で盛り上がりました。長野県の県民性という点、勤勉、真面目、勉強熱心、理屈っぽい、など、など。真面目な性格と言われれば聞こえがよいですが、全国で講演会を開く講師の中には長野県民はリアクションが少なく場が盛り上がりませんので非常に苦労するという意見も耳にします。感情を表に出さずに内向的な性格と思われると思います。

これは長野県の県民性の話でしたが、今それと同じ事が国際的にも起こっています。

海外のホームステイ先には様々な国の学生が集まりますが、中国人や韓国人は自分の意見を主張し疑問点があると直ぐにホストファミリーに聞きますが、日本人にはそれが出来ない。分からない事や不便な事が有っても黙ってやり過ごしてしまうそうです。他国の生徒に比べると一歩も二歩も出遅れてしまいます。ホストファミリーからすると、日本人は言葉や表情を表さないので何を考えているのか分からないそうです。

場を乱さず空気を読む。

感情を表に出すのが恥ずかしい。

集団の中に隠れて目立たないようにする。

これら全て内向的な行動です。予定調和を好み周りに迷惑をかけないという日本人の暗黙のルールがそうさせているのかもしれない。黙っていて相手に自分の気持ちが伝わる事は有りません。

今、学生に養ってほしい能力としてコミュニケーション能力が提唱されています。これは学力の高さや計算速度では補えません。先程のホームステイの学生のように疑問を言い出せないまま放置してしまうと日常生活さえ支障が出てしまいます。

意思表示や要求力は実現力につながると思います。逆に言うと自分の要求を押し殺していると、夢や目標の達成まで逃してしまうのではないのでしょうか。

コミュニケーション能力とは社会生活において自分と他人をつなぐための最も重要な能力です。学校はこの能力を養うには最適な環境が揃っていると思います。クラスメイトや先輩先生方の意見を聞き、自分の意見をしっかりと伝える。相手と向き合って対話をしなければこの能力は養えないと思います。学校とは本来、知らない事を学ぶ場所であり、自分の苦手な部分を隠す場ではありません。弱点に気が付き繰り返し反復練習により克服していくための場所だと思っています。

学校という環境を有効活用して自分に必要な能力を身に付けて頂きたいと思っています。

ダイバシティー

学校長
田澤直人



日ごろから本校の教育活動にご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

秋の紅葉の頃、里山の景観を眺めると、その彩りにハッとさせられます。

単一の針葉樹林の紅葉よりは、やはり、様々な雑木を含めた広葉樹林の紅葉のほうが、彩りも鮮やかに感じます。皆さんはどのように思われますか。

単一の彩りより、数多くの木々の織り成す彩りのほうが、深みがあると私は思うのです。

さて、表題についてです。

皆さんは、「ダイバシティー」という言葉をご存知でしょうか。日本語では、「多様性」と訳しています。

現代社会は、様々な価値観が存在し、その価値観を、お互いが尊重しなければならぬ時代であると私は考えています。

しかしながら、世界の現状を見ると、必ずしも、そうではありません。自国の利益を最優先する風潮が非常に大きくなってきているようにも見受けられます。

日本社会においても、自分の権利だけを声高に主張し、相手の立場に心を寄せる気持ちが薄れてきているのではないかと強い危機感を私は持っています。

自己を主張することはもちろん大切なことですが、また、相手を尊重する心持も同様に大切なことだと思っております。

多様性を尊重する、そんな学校文化を、是非、野沢北高校の中にも、さらに根付かせたいものです。

話は変わり、「匿名性を担保した学校評価」に関しまして、保護者の皆さんから、多くのご意見を頂戴しました。ありがとうございます。

学校としてすぐに改善できることは、すでに着手しておりますが、学校独自にはできないこともありますので、そうした点は、関係機関に働きかけていきたいと考えています。

詳細は、新年度のPTA総会の中で明らかにしていきたいと考えていますので、それまで、しばらくお待ちいただけます。

笑い ヨガ



笑いヨガを終えて ● 教養委員長 佐藤 恵

今年度は研修会として初めての試みである「笑いヨガ」の講師を迎えての研修を行いました。

まず「笑いヨガ」って？というお話から講師より説明して頂き、参加された皆さんが真剣に耳を傾けていらっしゃいました。

アンケート結果からも分かるように、皆さんいかに普段笑われていないか、笑うことから始めてみようと思われたようです。

私も男の子ばかりを育てている普通の生活の中で、イライラしたり怒ってばかりいる事も多々あります。

きっと少しは心当たりのあるお父さん、お母さんもいるのではないのでしょうか？

そんな時こそ講師の佐藤志穂先生より教えていただいた

「楽しいから笑うではなく、笑うから楽しい」

を実践したいと思いました。

いざロープレが始まって、お隣にいる方や歩き回りながら参加者の方々と笑い合っていると、最初は照れていらっしゃる皆さんも、段々と自然な笑顔で笑い合い、身体もぼかぼか…というより身体が熱くなってきました。

今回の笑いヨガ体験が初めてだった方が殆どで、是非家でもお料理をしながら笑ってみよう（傍から見たらちょっと怪しい？（笑））という話も出ました。

岳南会館で行いましたが、講師の先生はじめ、参加者の皆さんからも、研修会の会場としてもとても良く、是非来年も参加したいと喜ばれる方も多かったです。

笑いヨガを体験して ● 施設広報委員長 武田 慶枝

聞いたことはありましたが、初めて体験した笑いヨガ。

講師の先生の大きな笑い声につられて自然と笑顔になりました。

そんな風に大きな声を出して笑うのは恥ずかしいと思いつつも、先生の勢いにつられて、隣の初めて会う方と向かい合い、色々な顔や格好をして笑い合ううちに、恥ずかしさもどこかへ行ってしまいました。



日々子育てと仕事そして家事に追われ、笑うことが少なくなっていること、やっぱり家では笑顔でいたい、と改めて思いました。声を出して笑うことでイライラも減り、ポジティブになるという先生ご自身の体験談をお聞きし、母としての悩みは同じだと身近に感じる中で先生の言葉はすーっと入ってきました。

体を動かしながら声を出して笑う。周りから見たらとてもおもしろい姿に見えていたと思いますが、出席していた保護者の方、もちろん学校の先生方もみんなで笑い合っていた雰囲気はとても良いものでした。

子供達はこれから辛いことにぶつかると思いますが、笑顔で乗り越えられるよう強くなって欲しいと思います。

今回参加させていただいて本当に良い経験ができました。

体育祭 10月3・4日

体育祭を終えて

校内行事委員長二年二組 矢野朝子



校内行事三役が新体制になって一番最初の仕事は体育祭です。体育祭を思い出すと反省しか出てきませんが、反省文にはならないように書こうと思います。体育祭を終えて一番に感じたのは「もう一生やりたくない」ということでした。副委員長から委員長になったとたん責任感と不安は何倍にもなって、前委員長は何て完璧な方だったのだろうと何度も思いました。それと同時に自分の力のなさに絶望しました。準備期間中の自分を思い出すと本当に病んでいたと思います。たくさんさんの事を同時にできない、物忘れが激しい、人の前に立つとテンパって大事な事が伝えられない私が委員長になってしまっただけに良かったのか、と何度も思いました。しかし、私があせっていたら「はい、深呼吸〜」と言って落ちつかせてくれる翔くん、言うこと、言うことおもしろいのにありえないほど頭の良いけいと副委員長二人と、やさしい校内行事委員の方々、先生方、審判をやって下さった班活の方々、たくさんの方々のおかげで何とか体育祭を終えることができました。本当に感謝しありがとうございます。ありがとうございました。

この体育祭で得たたくさんさんの反省点をこれからの行事に生かしていきたいと思えます。

理数科課題研究発表会

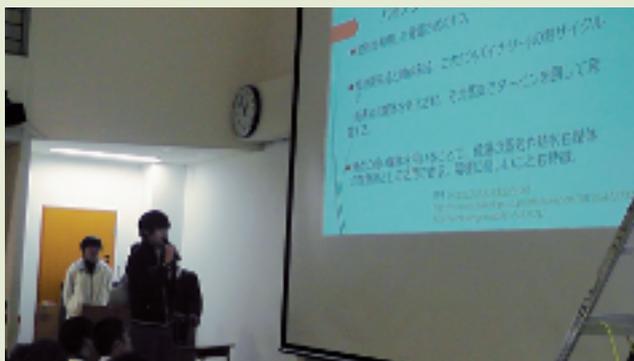
1/27

課題研究を終えて

二年五組 安藤あかり

クラシックで植物が成長すると耳にしたことはあるだろうか？私は正直そんなことはないだろうと思っていた。成長するというのは、音ではなくCDプレーヤーから出る赤外線が原因疑惑もあったし、個体差かもしれない。だから音以外はすべて同じにした対照実験を作って、データもとにかく多くとって詳しく調べることにした。

実験はトラブル続きだった。コマツナがまともに育たない、膨大な数の気孔を観察しすぎて校舎の壁が顕微鏡で見た葉の表面に思えてくる、注文して二ヵ月待って来たものが注文ミス（後に歯医者さんが提供して下さい）、などなどどこまで挙げきれない。なんとか問題をクリアして集計したグラフを見て、私たちは落胆した。よく関係性が見えなかったからだ。ここまでやってただの噂か、と思った。しかし！先生の助言でグラフの表し方を変えると音楽が成長を促進していることがはっきりわかり、つくづく表現の仕方って大事だと感じた。発表会では、人を惹きつけるプレゼンの重要性も身に沁みだ。課題研究に取り組んできて、路頭に迷ったことも多々あったけれど考えて追究していくのは本当に楽しかった。そして音楽が植物の成長を促進するなんて生物は謎だらけだなあと思う。協力して下さい皆さん、本当にありがとうございます！！詳しくは研究レポートで笑。



1 学年 松代見学



「松代象山地下壕」を見学して

二組 櫻井明香莉

私は今まで2度ほどそこに行ったことがあるのですが、意識して話を聞いたり、辺りを見回したりしていると新たな発見がいくつもありました。

事前学集（学年集会）で1度聞いた内容もガイドさんが話してくださいましたが、何度聞いても戦争は悲惨なものだと思いました。とりわけ「沖繩戦は松代象山地下壕を作るための時間かせぎでしかなかった」という話は辛いです。アメリカ人兵士に崖に追いつめられ、捕虜になることを許されなかった日本人は崖から飛び落ちるしかなかった、とか時間かせぎのために十数万人の民間人が捨て石にされた、とか。それで亡くなった方はなぜこうなったのかもわかっていなかった方もいるんじゃないと思うと、やっぱり辛かったんだろうなあ、と思います。

作るときに1日最大3千人の朝鮮の方を働かせ、数百人の方が亡くなっているのに、後世に語りつぐための証拠はないし、亡くなった朝鮮人の方の名前だったの4名しか分かっていないなんて、あんまりだと思いません。

無言館を見学して

二組 石井真莉奈

どの施設にも本当に素晴らしい作品が多々あって、美術作品の知識が全くない私でも引きつけられるものがたくさんありました。やはり一番印象深かったのは無言館です。美しい絵が並ぶ中、絵の下に作品を描いた方について書かれたものがありました。そこに目を通すと、その作品を描かれた方はほとんどが20代、30代という若さで亡くなっていて、中には19歳：まだ私と3歳しか変わらない方が作品を残して戦死してしまいました。まだ画家の卵で、これからは絵をもっとたくさん描きたいと願っていたのに亡くなってしまつてそれが本当に苦しくて。私はそれぞれの作品を見て、戦争へ旅立ち、帰ることはなかった若者たちの生きた証が、思いが絵に込められているような気がして私が今生きていることが本当に幸せなことだし、生きたくても生きられなかった人々の分も必死に生きなければと思いました。

2 学年 修学旅行



色濃い思い出

一組 黒岩さくら

四日間の中で、私が沖縄について感じたことを少しだけ紹介していきたいと思います。

まず人柄の良さです。明るくて優しく、気さくな方が多いなと思いました。ゆいレールの中では、現地の高校生が話しかけてくれ、沖縄の方言や名所を教えてくださいました。バスガイドさんもそうでしたが、元気で楽しい気分させてくれる方々がたくさんいました。

次に景色です。とにかく海が美しく、白い砂浜との組み合わせが最高です。夕日が沈んでいく時が一番うつとりしてしまいました。道路沿いにはヤシの木やハイビスカスが並んでいて、また、建物の雰囲気も独特なので長野とは全く違い、歩くだけでも楽しいと思います。

それと食についてです。料理名だけではよくわからない物もありますが、どれも美味しかったです。特に気に入ったのは、ソーキ煮というのとブルーシールのアイスです。

そして忘れてはいけないのが戦争についてです。体験談を聞き、資料館では当時の様子を模型にしたものや写真や遺品など、どれも衝撃的でしたが、未来を担う者としてこの事実を受け止め、悲しい悲劇が二度と起こらないように平和な日々感謝し、続くことを願っています。

とても色濃く、素敵な思い出となりました。

探究

探究発表会を終えて

二年四組 原田淳平

僕は一年間やってきた探究発表会をしました。発表するまでにやってきたことは簡単ではなくとても大変でした。まず一番最初にくじ引きでグループを決め、グループごとに興味・関心事に関して話し合いテーマを決めました。今まで僕は、課題などが決められた上で、その課題に関して考えてきたため、最初の「課題」から自分達で決めるのは思っていたより大変でした。また自分達で一から決めていかなければいけなかったあの班の意見がうまくまとまらないこともありました。そんな中でも僕は皆が協力し合い探究発表の時までには全てのグループがプレゼンを完成させることができました。探究発表の当日は、一、二年生や外部の方がいたので緊張しました。でもプレゼンを聞きに来てくれた人達はみんな集中して話を聞いてくれました。プレゼンを聞いてくれた人達は直接じゃなく紙でも自分達のプレゼンに対して、意見や感想を述べてくれて、「もっとここを調べればよかったな。」とか思うことができ、さらにプレゼンの内容を濃くできるなと思いました。

今回の探究はいろいろ大変だったと思うけど、これからこういう機会はあると思うのでこの経験を生かしていきたいです。



探究発表会の見学を終えて

一年一組 神津裕紀

十二月八日に自分達、一年生は二年生の探求発表会を見学しました。簡単にまとめると探求とは毎週月曜の七時間目に各クラスで行われていて、答えのない問いに対してグループ全員で討論し、自分の考えを深めるというを行っています。この探究活動は個人ではなく、グループで行うことで自分だけの視点だけでなく、色々な人の意見を聞くことで視点が広がり、自分の考えの幅が広がります。さらに今、日本で最も求められているコミュニケーション

シヨン能力も養うことができ、将来に役立つこと間違いなしだと思います。

そして二年生の発表会を見学した時、常に人がたくさん集まる班、あまり人が集まっていない班がありました。自分はこの二つの班はどこが違うのか考えてみました。それは題名のつけ方です。題名を英語にしたり、問いかけるような形にするなど工夫していた班は人が多く集まっていると感じました。さらにもう一つの違いはインターネットなどで調べても答えが出てこない問いを立て、自分たちの考えで答えを出している班と出していない班では出している班の方に人が集まっていると感じました。

自分達の探究活動をさらに良いものにするために自分が探究発表会で気付いたこと、学んだことを大切にしながら、これからの探究活動を行っていきたいです。

ご卒業

おめでとう

三年間をふりかえって

三年一組 中川輝

僕の三年間は、「あともう五分」の二度寝のように、何もなく瞬く間に過ぎてしまった。

とは言っても思い出はたくさんある。団員の迫力に歌詞を下忘れ。先生にバレないように集まって夜更かしした学習合宿。修学旅行の時は先生が優しく、沖縄を十分満喫できた。三年生の合唱は念願だった優勝をした。一年生の時から夢だった先生とのソフトボールもできた。だが、一番の思い出は陸上だ。

僕は中学から最後の新人戦まで走り高跳びをやっていた。あまり走らなくてもいい上、カッコイイからだ。しかし高二の冬、以前から興味を持っていた三千メートル障害への挑戦を決断した。毎日走った。夜でも雪が降っても走った。走ることに全力を注いでいた。そして夏、最後の大会の後、嬉しくも悲しくもないけど泣いた。いままでのキツイ練習、仲間との思いで、走ることにへの想い、全てが込み上げた。

高校生活で、「全力でやった」と思えることがあつてよかった。

三年二組 田嶋和篤

「高校生って一年中サンダルで生活するんだ。」そんな些細なことに驚きを感じ、不安や期待を胸に抱きつつ始まった高校生活。今振り返ってみると、あまりに多くの思い出

が詰まった楽しい学校生活でした。中でも、私が特に思い出に残り、学びが多かったのは班活動です。

私は、男子バスケットボール班に所属していました。三年間のバスケットボール活動を通して、『質と理由』の大切さ、『声を出す』ということの本意を知るとともに、かけがえない大切な仲間を得ることができました。いかに頭を使って練習しポイントを押さえることができたか、何を根拠にそのプレーをしたのか。自分はこうしたいが相手はどうしたいのかを確認する声など、様々なことを学びました。また、毎日バカみたいに騒ぎ、辛い時には励まし合えた最高の仲間が大好きでした。

長かったようで短かった三年間、沢山の人や環境との出会いが私を今まで以上に成長させてくれたと思っています。クラスメイト、班活動の仲間、先生方、関わった全ての人達に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとう。

三年三組 瀬下菜々子

暑い日も寒い日も、嫌と言いつつも約一時間をかけて毎日通学してきましたが、あつという間に三年が経ってしまいました。三年間で通学にかけた時間は、なんと約五四日分にも及びます。大変でしたが、終わりとするとやはり寂しいものです。

あつという間だったといつても、勉強や班活、行事など多くのことがあり、三年間の中身は濃いものとなりました。その中でも特に思い出深いのは班活です。楽しいことばかりではなく辛いことも沢山ありましたが、個性豊かで素敵な仲間恵まれ、共に乗り越え、その先にある成功や結果を掴むこともできました。自分一人ではできないことは多いですが、良い仲間に出会えたおかげで様々な経験をし、成長させてもらえた高校生活だったと感じています。

これからは自分の選んだ道を、希望を持って歩んでいきます。野沢北高校とはお別れですが、寂しくなっていく日は、きっと遠くないでしょう。

三年四組 古原悠日

この3年間をふりかえってみると、やっぱり3年次が一

番濃い年でした。

3年になると、やることが何でも「最後」になりました。だから私は何でも全力で取り組みました。中でも、私は書道同好会に所属していたので、文化班の晴れ舞台、日輪祭が一番忙しく、充実した時間だったなあと思います。班活では初の試みとして、今までに使ったことのない、大きなサイズの紙でパフォーマンスしたり、ダンスを取り入れてみたり、スクリーンに書いている所を映し、観客の皆さんに見てもらいました。あまりうまくいかないこともありました。自分たちらしく、笑って終わられたので、よかったです。

いろんな初挑戦をしたことで分かったのは、なんでも人の助けがないと物事は成り立たないということです。短期間でしたが、先生、友達、後輩などの協力で沢山のことが成し遂げられました。助けてもらうことのありがたみを知ることができた貴重な時間でした。学校生活での学びを活かし、これからの人生も頑張っていきたいです。

三年五組 佐藤夏子

高校生活も残りわずかとなりました。この三年間はとて

もあつという間に過ぎました。三年五組の朝の教室には全然人がいません。授業開始十分前から来始め、ギリギリで来る人もいれば、遅刻してくる人もいます。逆方向の電車に乗ってしまったとか鳥にフンを落とされて一度帰宅したとか理由は様々です。

授業中は静かですが、昼食の時はゲームの話やアイドルの賞賛や批判など色々な話題が飛び交っていました。昼食後のショートホームルームはとて

もショートの、何もない時は開始40秒くらいで終わってしまふこともしばしば。そんな感じで一日一日があつという間に過ぎました。ですが、思い出も沢山あります。何人かが上位に入賞した強歩大会、女子のバスケットは三年連続無敗だけドバレーは全敗だった体育祭、『店の名は』という名前前でやきそばの模擬店を出した日輪祭など本当に楽しく素敵な思い出ばかりです。たくさん思い出を作れたのも、飯島先生を始め、五組の皆がいたからです。本当にありがとうございました。

班活動の大会結果

今年度の秋以降に行われた、長野県大会以上の結果を中心に紹介します

運動班

◆野球

<秋季北信越県大会>

本校3-6ウェルネス筑北

永原 彩 背泳ぎ
50m2位
100m3位
200m3位

◆陸上

<県新人大会>

(男子)

並木久幸 3000m障害
新海悠貴 三段跳15位
掛川晃都 円盤投
石川泰地 400mH 準決勝
早坂晃太 三段跳23位、400mH
宮沢颯助 やり投20位
早坂・新海・高橋・飯塚 400R
石川・岩崎・早坂・新海 1600R

(女子)

安藤あかり 400m
七種競技9位
櫻井裕梨 走高跳3位
梅田佳奈 砲丸投7位
やり投10位
ハンマー投7位
碓氷眞子 800m準決勝
1500m
走幅跳27位
三浦元海 800m、400mH
青木涼香 100mH、走高跳
三段跳
林 実玲 砲丸投18位
円盤投27位
やり投6位
青木・三浦・碓氷・安藤
400R、1600R

<北信越新人大会>

櫻井裕梨 走高跳

◆水泳

<県新人大会>

(女子)

小林萌笑 バタフライ
50m5位
100m2位
200m2位

◆ソフトテニス

<県新人大会>

男子団体
1回戦 本校1-2 長野商業
男子個人
興良・栗林
女子団体 ベスト8
1回戦 本校3-0 長野清泉
2回戦 本校2-1 松本県ヶ丘
準々決勝 本校0-2 長野吉田
女子個人
佐藤・田岡、土屋・塩川、
木村・友野

<選抜県大会>

女子団体 ベスト8
1回戦 本校2-1 長野南
準々決勝 本校0-2 長野商業
女子個人
木村・友野、土屋・塩川、
新津・岡島

◆テニス

<新人選手権>

男子A級シングルス
阿部公太
男子B級シングルス
柳澤佳汰
女子B級シングルス
井出杏佳
女子B級ダブルス
井出・小林

<学校対抗戦>

(男子)
Aチーム 予選トーナメント4位
本校2-1 岡谷東
本校2-1 上田西B
本校0-3 岩村田
本校1-2 松本県ヶ丘

Bチーム

本校1-2 東海大諏訪
本校2-1 岡谷東B
本校3-0 エクセラシオンA

◆バレーボール

<県新人大会>

(女子)
1回戦 本校0-2 松商学園

◆バスケットボール

<県新人大会>

(男子) ベスト16
本校73-29 須坂
本校80-98 松本県ヶ丘
(女子) ベスト16
本校68-53 松本深志
本校49-65 長野南

<選手権大会>

(男子) ベスト8
本校84-64 松本県ヶ丘
本校66-129 東海大諏訪
(女子)
本校74-78 長野吉田

◆ハンドボール

<県新人大会>

(男子)
本校28-17 岡谷南
本校12-36 屋代
(女子) ベスト4
本校16-17 東海大諏訪

◆バドミントン

<県新人大会>

女子団体
本校0-3 市立長野
女子ダブルス
湯浅・白鳥
女子シングルス
湯浅ももな

◆サッカー

<県新人大会>

本校0-4 長野日大

<選手権大会>

本校2-1 南安曇農業
本校0-1 飯田

◆剣道

<県新人大会>

男子団体 出場
男子個人 井出裕貴

◆卓球

<県新人大会>

男子団体 ベスト16
本校3-1 長野西
本校0-3 松商学園
男子シングルス
原田 響、美齊津伸広

◆弓道

<県新人大会>

男子団体
由井・深澤・篠澤・小林
男子個人 深澤颯斗
女子団体A
半田・土屋・永井・土屋
女子団体B
武内・横山・中村・小山田
女子個人 半田若佳那

文化班

◆棋道

<信州総文祭将棋プレ大会>

男子B級
小金沢優貴 6勝0敗 優勝
女子
畠山理香子 3勝2敗 5位

<県新人大会 将棋>

男子個人A級
小金沢優貴
決勝トーナメント進出

スイス式3勝1敗 16位

男子個人B級

中嶋 駿

スイス式5勝2敗 7位

女子個人

畠山理香子

スイス式3勝1敗 2位

<北信越新人大会 囲碁>

男子個人

古川友暉

スイス式2勝2敗 8位

◆美術

<県高等学校美術展>

篠原みなみ、栗林明日美 出品

◆吹奏楽

<中日コンクール県大会>

小編成の部 銀賞

<管楽器個人重奏コンテスト>

個人の部
齋藤颯太 サクソフォン 金賞

◆英語

<県ディベート大会>

白田安里

ベストディベーター

土屋立輝

セカンドベストディベーター

◆軽音楽

<県フェスティバル>

pollen、星月夜、AKASHI 出場

pollen(白田・片井・山岸)

優秀賞(ベスト4)

編集後記

早いもので、今年度がもうすぐ終わろうとしています。この一年間、生徒たちはそれぞれ色々なものを乗り越え、日々成長していったことと思います。そんな生徒たちの成長を、生徒たちにはれぬよう手助けしていくことが、私たちの使命ではないでしょうか。生徒たちがそれに気付くのは卒業して何年も後、そんな手助けをしていけるよう、保護者の皆様、先生方、今後ともご協力をよろしくお願いたします。

施設広報委員